


合理的配慮検討シート

小学校 年 組 番 氏名：	
1. 子どもの困難さ・具体的な場面	
○ 順番を待つことができない。 <ul style="list-style-type: none"> みんなで活動する場面で、別のことをしている。 参加しなくてよい活動に参加している。 一番になりたがる、一番にやりたがる。 「いただきます」をみんなと揃ってできない。 	
2. 隠れた要因	
○ 指示理解の難しさや、我慢することの難しさがある。 <ul style="list-style-type: none"> 曖昧な指示が理解できない。【高次脳機能・言語機能】 行事の流れについて、見通しがもてない。【実行機能・計画立案】 衝動的に行動してしまう。【実行機能・反応抑制】 なんでも一番がよいと思っている。【実行機能・優先順位】 	
3. 視点	<ul style="list-style-type: none"> 行事では、口頭の指示が飛び交うことが多く、その場の状況を汲み取って、暗黙の了解で動かないといけない場面がある。 指示の内容も、守るべきルールも曖昧なことが多いので、抽象表現を理解することが苦手な子は混乱しやすい。 実行機能が弱く、行事の流れが理解できていない場合には、待機する場所が分からない、参加するタイミングが分からな・いといった様子がみられる。 自分の出番ではない活動に参加してしまったり、反対に、参加しなければいけない場面にいなかったりすることがある。 衝動性が高いこの場合、やるべきことが分かっているにもかかわらず、目に入ってくる情報に刺激されて、順番を待てずに体が動いてしまうことがある。 「一番はすごい!」と、一番になることにこだわりをもってしまう子もいる。一番にならないといけないと思い込んでフライングをしたり、人の前に出たりして、順番が待てない場面がある。
4. 考えられる合理的配慮	○ 待ち時間を視覚化する。 <ul style="list-style-type: none"> 演目や競技について、スケジュールや手順書を用いて視覚的に情報を伝える。 活動がどこまで進んでいるのか、次に何があるのかが見えるようにしていく。 時刻や時計がわかりにくい場合は、待つ時間が見えるタイマーなどを用いるのもよい。 ○ 別の場所で待つ。 <ul style="list-style-type: none"> 衝動性が高い場合、待つ時間が長すぎてその場にいられないようであれば、別の場所で待つのもよい。 参加する直前になったら待機場所に移動し、苦手な環境で待つ時間を短縮できる。 ○ バディ形式で取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 友達とバディを組み、2人日と1組で行動するのもよい。 友達の助けを得て、指示を理解しやすくなり、見通しをもてる場合がある。 待機する場所が分からない場合にも、友達に誘導してもらう。 ○ 「一番ではないこと」の受け入れを練習する。 <ul style="list-style-type: none"> 一番にこだわる子には、「一番でなくてもよい」という価値観を教える。 取り組んだこと、頑張ったことを評価する。 二番になること、負けることもあることを、事前に説明する。負けたときのセリフやポーズを決めておくのもよい。 負けたときの対応を評価し、感情に対する自己コントロールを強化していく。



00 00

M W

0 0 0

00 = 00 =